役員選出にナヤミ

「仲よし運動」と主婦会の組織

主婦会では組織整備と仲よし運動を目標に、去る十一月十四日から十二月九日まで各社宅を中心に、分会座談会をひらきました。編集部では各会場に出席した本部役員に乗つてもらいこの座談会を通じてみた組織の内部と、会員の要望意見など、こんごの活動の資料となるまとめを語つてもらいました。（司会＝編集部長、主婦会藤枝会長以下九名）

活動には無関心

司会　本日はお忙しいところご苦労さまです。早速座談会に入りますが、仲よし運動の分会座談会ですね、これはどういう意図で計画されましたか。

A　組織の再整備が目的なのです。主婦会が結成から六年を過ぎてみると、結成当時と較べて主婦会に関する無関心というか自覚が薄れているように感じられます。とくに会員のなかでは、その原因が会員のなかでなく運営にあるのではなかろうかと思われています。それでこの際、みんなと膝を交えて話合いその中から組織の再点検をして、企業合理化という重大な時期に直面しているこのときに早急に闘う態勢をつくることが目的なんです。

司会　組織の再点検ということですね。そのためにはとくに外来に重点をおくなどの方針はなかつたのですか。

C　外来だけは今年度の当初に一応すましました。それでこんどは社宅に重点をおいたのです。

司会　大分方々でやられましたが何回ぐらいになりましたか。

C　やり始めたのは十一月十四日から十二月九日までの十八日間で、延べ八十七回数にわたりました。

B　とくに本部役員を四班にわけ担当支部から支部役員に出席してもらいました。だが、要請に応ずるため臨機応変に編成もしましたね。

年に数回欲しい

司会　どういう問題が柱になつたんですか。

D　当面の緊急事態を問題におきました。そして主婦会としてできる「仲よし運動」を展開しようと掘下げました。

司会　組合でも会社の再建案にどう対処するかをやつているが、主婦会の場合はこれに併行して「仲よし運動」をすすめて行つたというわけですね。

F　まず組織を固めるには仲よし運動が大切だと、この運動を推進したのです。

司会　仲よし運動はどんな所からの思いついたんですか。

A　九月に実行するはずだつたんです。当面する緊急態勢にあわせるようになりましたが、組織の前進のためには、さきにいわれたような主婦会の組織を默つてみていても駄目ですから、ニガイことも率直な気持で問こうそれにはみんなが手をつないでこそ団結もできるし、組織の再点検もできる。こういうわけで計画したのです。そのあと緊急態勢の確立が起つてきましたので、それに重点をかけてやつたわけです。

司会　どうでしたか、総合的にみて主婦会全体がどういう組織状況にあるのか学ぶべきところがあつたと思いますが……。

E　総体的に憂慮していたように私はうけとりました。問題はみなさんが本部から下りていつた話合いにとても気持よく臨んでくださつたことと、率直に受け入れてもらつたこと。幹部部からの話よりも質問もしやすく、理解しやすかつたといわれたがとてもうれしかつた。少ししよいすぎたかも知れませんが。（笑声）

G　一年に三回ぐらいはこんな座談会をぜひ開いてくれとの声も多かつたよ。

H　いままでは組合の情宣をきくという態度でしたが、こんどは皆で話合わねばならないのだと理解してもらいました。〃仲よし運動〃を実のあるものにするにはまず寄り合うのが大切だとの気持ちが、私のいつた分会では見うけられました。

自覺と認識が大切よとこの日の座談会

語し言葉の研究

I　話合つて解決しようということですね。

C　一般に上部の動きが会員にはわかつていません。そういうところから主婦会にたいして自然と無関心になつているようですこういう点からこのパイプがどうしたらよく通るようになるかを考えました。

それに評議員制度について初めていわれましたが、この制度になつてよい面がある反面、悪い面もある。規約改正のとき十分考えてもらいたいとの声がでました。それは六十名に一名という評議員の制度では、六十名以下の分会では一名の評議員が事故のあつたとき代理がいないこと、評議員ばかり会議が多く、分会役員は代議員会に年一回出席するだけだから、勉強の機会が少いことなどあげられました

E　それで評議員と分会役員のアンバランスができて、分会の運営がうまくいかないとの声もありました。

B　私は組合員は主婦会について認識がうすいのではないかと感じましたが……

F　機構の面で感じましたが、上部の動きを下部に流すのは班長さんを通じてやつていますが、現在の班長さんはリンク制ですからよく徹底するところもあれば、そうでないところもあり、凸凹のようです。

A　逆の面も出たんですよ。会員に支部の動きを伝えるため評議員をフルに動かして行くと、とても徹底するといわれました。

未加入者への呼かけ

司会　いろんな要素が含まれているわけですね。だからこそ〃仲よし運動〃が必要なわけですね

C　未加入者の問題ですが、この人は結成のとき会社の旗頭となつて徹底的に反対したそうですところがある会員の人がこの人らに「貴方たちは主婦会に入らん方がよかよ」といつたそうでそのことで議論が相当出ました主婦会の組織のためには問題ですよ。

A　私の所では受入れをした分会長に対して不満も出ていました

司会　未加入者の数はどうです。

B　全体の一％もありませんね

司会　未加入者を問題とするのではなく、やはり入つている人の問題、主婦会の組織をどう強めるかが重大なことでしようね。

E　この人たちが未だに悪いつながりをもつている、だから未加入者のこともおろそかにはできないですよ。

司会　この人たちのグループ、これは考えるべきです。その悪いつながりをよいつながりにして行く、難かしいことですがそうして暖く呼びかけるようにもつて行くべきですね。

では、つぎにこんどの座談会を通じてとくに強調するものは何かありませんか。

欲しい主婦の目覚と認識

A　いざ鎌倉というときは自分達は必ずやりますから安心して下さいこれが共通していましたね

C　そんなことでは今の難かしい情勢のなかでは危険ですから、どうしても普通から組織を強化して行かねば駄目だと説明しましたが……。

B　生活が一応安定したとの錯覚をおこしている人もあつた。こういうことで組合活動でも主婦会活動にも割合い無関心になつているのがうかがえました。

D　私たちが一番評議員に望みたいことは、報告事項などみんなが本当に聞いていてくださるかどうかです。

C　そうですよ。会議のときでも終り近くなると、そそくさと帰られるのをみかけます。会議には腰をすえて、責任者としてじつかり聞んで頂きたいですね。

E　ある分会では役員選出が困難なために、クジで出席する人もあるそうです。また、会議では組合用語が沢山出るのでわからない、だから出席をタメラウこんな例もあります。

司会　結局いままでのことを結論的にいいますと、一人一人が立派な働くものの主婦として自覚と認識を深めて行くことですね今日は皆さんお疲れのところありがとうございました。

主人の理解が大切

司会　結局、評議員制度になつたために、支部では分会の役員まで含めて会議をいままで一カ月に一回もつていたのを、もたれなくなつた。それで分会の動きがにぶくなつたこと、一分会から数人出ていくために責任のなすり合いみたいなことがおこる。逆に、活動家がふえて動きが活発になつた、こういう結論になりますね。分会員の少いところは評議員はいないのですか

F　最低一名は出ます。だが交替して出すようにしないと、外来などは連絡がつかないところもあるわけですね。

B　外来では評議員制にふんまんが多いですね。

司会　別な問題はありませんでしたか？

D　主婦会にたいする無関心さが原因となつて役員選出に困難をしています。役員になり手がないというのです。その理由として〃服装が派手だ、外出が多い組合員である主人の無理解〃などがあがつています。

E　全般的に出たんですが、皆の協力がないこともあげられていました。

B　私たちは〃遊たきりスズメ〃同じ服装をしようちゆうしていることをいいました。

C　服装は役員を断る理由と思いましたので、突込んで質問しましたら、結局はそれになつてしまいました。つまりその人の個念や心構えいかんですね。

C　組合員にも問題がありますよ役員の主人に組合員が「お前は尻に敷かれているのだ」というだから主人らは余計に奥さんを役員に出したがらない。こういうことも出ました。

欲しい主婦の目覚と認識

A　いざ鎌倉というときは自分達は必ずやりますから安心して下さいこれが共通していましたね

C　そんなことでは今の難かしい情勢のなかでは危険ですから、どうしても普通から組織を強化して行かねば駄目だと説明しましたが……。

B　生活が一応安定したとの錯覚をおこしている人もあつた。こういうことで組合活動でも主婦会活動にも割合い無関心になつているのがうかがえました。

D　私たちが一番評議員に望みたいことは、報告事項などみんなが本当に聞いていてくださるかどうかです。

C　そうですよ。会議のときでも終り近くなると、そそくさと帰

雑記帳

ひる休みの婦人論（3）

江上真佐子

冬にしては馬鹿にあたたかなある日の昼休みに仲間のY子さんとおしゃべりしていました。そこに主婦会の役員のUさんが来合せそれからの一時間を、ときのたつのも忘れて話込んでしまいました

Y子さんが〃みいけ〃の〃仲間の本棚〃にかいた婦人論の話しからでした。私もUさんも婦人論はずつと以前に買つてもつているのですが、なまけてまだ読んでいなかつたのです。それでY子さんが〃本棚〃にかいたことにはげまされ、一大奮起して、私はまた読みはじめたそうです。Y子さんは「主婦会の活動家には特に読んでもらいたいのよ」といつていました。すると、主婦会のUさんが主婦の多忙さについて、いろんな悩みをだされたのです。「家事、子供や夫の世話、主婦会の仕事など、ゆつくり本を読むひまなんてとてもない。今朝も洗濯しながら一日の仕事の計画をたてたのよ。こうしておしゃべりしてる暇はないのだけど――少しの暇をみつけて本を読んでいると、同じ主婦会の仕事をしている人たちが〃まあむづかしい本をよんで――私達にはとてもわからない〃と、いやな顔をされる。沢山本をよまなければいけないのよ、と話をしてあげるとわかつてもらえる。でも主婦は確かに本がよめない。あなたたちは今のうちにたくさん読んでおきなさいよ。結婚するとてもダメよ」

こうして話をしていると勉強しなければいけない〃やろう〃という意欲がわきます。やはりいろんな人たちと話合う必要がありますね。

ひる休みの婦人論

江上真佐子

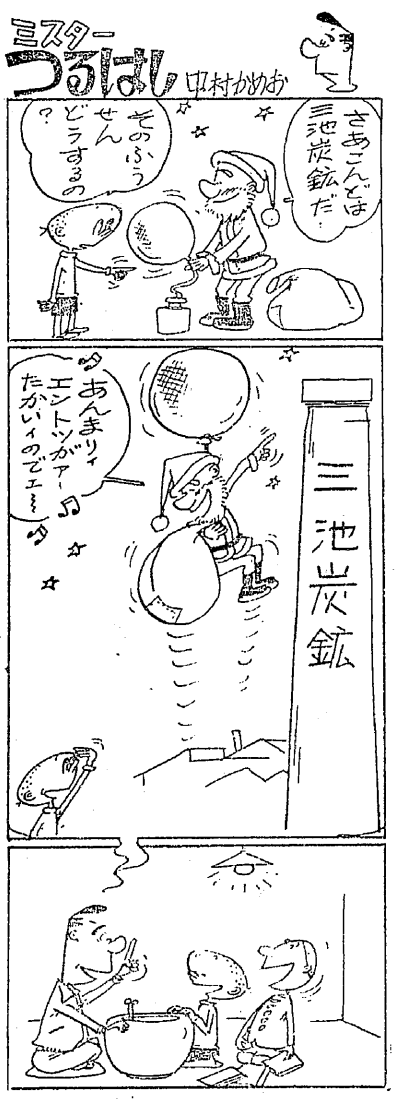
それからお互いの性格の話しになりました。それでわかつたのですが、人はそれぞれ自分の性格について悩みをもつているものです平気そうな顔をしていても心の中ではよく悩んでいます。

私は明るくてゆたかで、あたたかい心の持主になりたいと思っています。でも、いつの間にか冷たいふるまいをしている自分を発見してとてもイヤになります。だれにでも親切で、いじわるをせず、みんなと仲よくくらせる様になりたいものです。

Y子さんは、しずかで落ちついていて、ひとつも怒ることがない人ですが、自分ではその性格について悩みをもつているらしくこんなことをいいました。

「限られた範囲内での深い友情しか持てない。もつと誰とでも気がるく接したい。私はとつつきが悪いのね。ながくつきあえばものすごく仲よくなるのよ」と。

（筆者は本部書記）



なるほの本棚（15）

徹底的に戦争の怖しさを描いた戦争小説

静かなドン

ショーロホフ著　原久一郎訳

同全集で三巻にわたる所謂「大河小説」である。革命戦争にたいする反革命戦の場面が大部分であるが、もちろん好戦的、英雄崇拝主義的なものである筈はない。

主人公グリゴーリイは封建的、好戦的気風をもつドン地方のコサックの家にうまれ、そのような血を継承しているが、ひどい対独戦線の体験から、戦争にたいする懐疑にとりつかれ、革命戦では、当初革命軍（赤軍）に心をよせる。しかし、赤軍のドン地方での残虐行為を目のあたりにみるや、古老や富農、白軍の煽動によつて惹起した反革命軍に身を投じ、累進して師団長にまでなつて奮戦したが結局赤軍の数量におされて敗退、ついには身のおき場もなく、徒党の群に伍してにげまわり、その間一家は父母、兄、嫂、愛人と五人までも、直接、間接に戦争の犠牲となつてゆく。

自分の生れた土地を舞台に十年前後もくり返される戦争に、村の男子は死滅し、土地は荒れはて、しかもなお、コサック同志が敵味方にわかれて殺し合う惨らしさはまさに日本の戦国時代以上である夫を戦場におくり、うしなつた、たくさんの戦争嫁と未亡人は、セックスのはけ場を、未成年や義父にもとめて、いたるところに性の混乱がおきる。豊饒なドン地方からまつたく平和は姿をけしたのである。

作品の背骨（厭戦・平和愛好）をなしている思想的骨太さはもちろん、その背景に描かれているロシア的風物は、悠長かつ繊細。戦闘描写の迫真力、それに豊かでおおらかな人間味、生命を断たれる直前までユーモアを愛するロシア人気質は、彼の筆によつてはじめて遺憾なく描破され、全篇を通してヒューマニズムと高い芸術的感動が横溢している。

上述の意味で、私はこの書を、単にすぐれた文学書としてだけでなく、力強い、興味ふかい思想の書として人間解放と平和を念願する「働く仲間」におすすめしたい

（かとう・せつを）

新潮社版世界文学全集17
四六判　各巻四五〇頁三五〇円

◈前号本棚の「黒人・迫害と叛逆を越えて」の稿を寄せられたのは港務支部書記の宮本泰子さんでした。